



首都圏の「台所」を歩く

奈良教育大学教授 岩本廣美

日本の食料全体の自給率は約40%ですが、野菜に関しては80%以上自給しており、現在も日本各地で野菜栽培のさかんな地域がみられます。『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）p.73の統計表で農業生産の欄を見ると、都道府県別の順位は、北海道に続いて茨城県が2位、千葉県が3位で、首都圏で農業がさかんなことがわかります(図1)。

都道府県	新産出物の総生産額とその他の人口(万人)	人口		農業生産額(億円)		農産・林産・水産額(億円)		平均気温(℃)	降水量(mm)		
		2011年1月現在	2010年1月現在	2010年	2009年	2010年	2009年				
1 北海道	旭川(うつろひ)	189.7	55.2	166	10,251	52.7	1,766	56	5,027	295	150.6
2 茨城県	鹿嶋(かほり)	29.9	140	146	2,528	28.7	653	671	813	24	95.6
3 千葉県	鹿野(かしの)	29.8	134	88	2,445	30.1	245	120	1,282	119	19.7
4 東京都	知多(ちた)	104.6	232	325	1,675	28.8	265	19	472	49	36.6
5 埼玉県	新田(あらた)	32.4	110	95	1,649	19.0	278	84	302	73	1.2
6 山形県	山形(やまがた)	25.4	117	125	2,097	40.2	335	452	333	33	0.8
7 宮城県	塩釜(しほり)	29.2	235	149	2,595	43.7	536	275	535	74	8.6
8 秋田県	新庄(あらた)	26.9	297	489	4,194	40.8	555	130	1,181	26	15.4
9 栃木県	宇都宮(うつのみや)	51.1	200	312	2,693	34.6	778	89	887	37	0.1
10 群馬県	前橋(まえばし)	34.0	200	315	2,244	9.1	785	95	937	17	0.1
11 東京都	練馬(ねりま)	122.4	712	1,874	1,997	17.8	931	76	305	7	0.001
12 千葉県	千葉(ちば)	98.3	614	1,193	4,216	32.7	1,632	158	1,053	8	20.9
13 東京都	板橋(いたばし)	284.6	1,266	5,764	273	0.1	148	31	21	3	9.7
14 東京都	練馬(ねりま)	368.9	896	3,678	756	1.6	388	85	173	3	5.4

図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.73

その内訳を見ると、野菜の生産額では、千葉県が2位、茨城県が3位にそれぞれ位置し、米や畜産の生産額でも全国の上位に位置しています。

今回の地図歩きでは、首都圏に住む人々に

生鮮野菜などを供給していることから、首都圏の「台所」ともよばれる千葉県の下総台地に注目し、地図を通して地域の様子を探っていきます。また、ここで栽培されている特色のある作物についても考えてみます。

下総台地の広がり土地利用

地図帳p.38、50万分の1拡大図「東京都とそのまわり」で、千葉県北部方面の下総台地と記された付近の土地利用を見ると、薄緑色で示された畑がかなり広がっていることがわかります。

下総台地は、標高が高いところでも100m前後で、多くは標高30~70mの比較的平坦な土地が広がった台地です。台地を刻む谷間では古くから水田が開かれ、開発の遅れた台地上でも明治時代から本格的に畑が開かれてきました。地形と土地利用に関するこうしたよ

うすは、地域版地図の「わたしたちの八街市」(図2)で具体的にみることができ、森林もかなり広がっていることが読み取れます。地図帳p.38の下総台地の土地利用で、茶色で示された

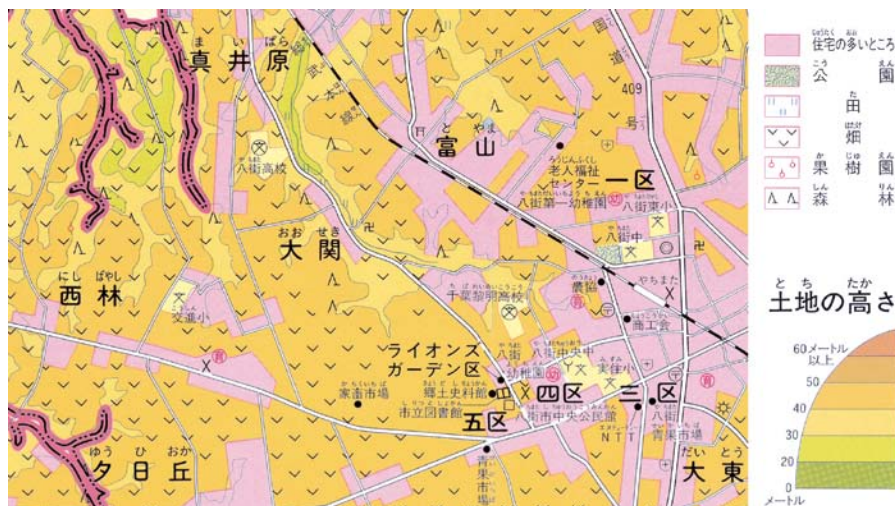


図2 『わたしたちの八街市 (部分)』(編集・発行：八街市教育委員会)

ところはおおよそ森林であると思われますが、地域版地図による限り、実際には畑と森林が混在している地域であることがわかります。

下総台地の畑の作物

下総台地の畑では何が栽培されているのでしょうか。地図帳p.38で八街市・富里市付近を見ると、作物がイラストで示されています(図3)。すいか、さといも、にんじん、ごぼう、らっかせいといった作物が多く栽培されていることがわかります。



図3『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.38

ただし、これらのイラストを読み取る場合、ふたつのことを考慮する必要があります。

ひとつは、たとえば富里市のすいかのイラストを例に述べますと、現地のすべての畑ですいかの栽培が行われているという意味ではなく、あくまでも他地域と比較して富里市ではすいかの栽培がさかんであることを意味しています。実際には、すいか以外の作物もかなり栽培されています。このことは、にんじんやごぼうなどほかのイラストでも同様です。

もうひとつは、季節や年によって同じ畑で栽培する作物が変化していくことです。たとえば、富里市のすいかは、春から夏までは栽培のようすがみられますが、秋～冬は別の作物になります。また、翌年の春～夏に同じ畑ですいか栽培されることは通常ありません。

下総台地の特産物

先にあげた作物のなかで、すいかを除くさといも、にんじん、ごぼう、らっかせいは、食材になる部分がいずれも地中にあることに気づいていたでしょうか。これは、下総台地の畑の土が富士山などから飛んできた火山灰に由来する「関東ローム」とよばれる赤土からできていることと関係しています。下総台地の土は、地中から作物を掘り出す作業が比較的しやすいという事情があるのです。

これらの作物のなかで、地図帳の統計には表れていませんが、下総台地の特産物になっているものがらっかせいです。「なんきんまめ」や「ピーナッツ」ともよばれるらっかせいは、実が土の中で大きくなっていく珍しい植物です。全国の約4分の3を千葉県で生産しており、とくに八街市でさかんに栽培されています。秋の八街市では、収穫したらっかせいを束ね、乾燥させるために畑の上でしばらく野積みする「ぼっち」とよばれるものが見られます(写真)。



* * *

全国には、下総台地のほかに、野菜がさかんに栽培されている地域がたくさんあります。栽培されているおもな作物は、地図帳の拡大図のなかで、イラスト表示されています。まずは、自身の住んでいる地域ではどのような作物が栽培されているのか調べてみましょう。きっと新たな発見があることでしょう。